

第七十回フォト句優秀作品（29年2月13日）





嫁にゆく

手塩にかけた

三姉妹 晃二



晒されて

塩すり込まれ

熟れを待つ

和彦

寸 評：

1) 豪雪や宿を求むる僧ひとり 中村 晃也

雪国の街で見かけた庭先の石灯籠を、雪を被り腰の曲がった僧侶にみたてた。

2) 酔い覚めの信濃の朝のブルツとし 矢澤 正二

雪の街の俯瞰はなかなか特長が出ないものだが、背景に林とかすかな山霧を配した構図と、気の利いた句が雪のやんだ朝の雰囲気を上手に醸しだしている。

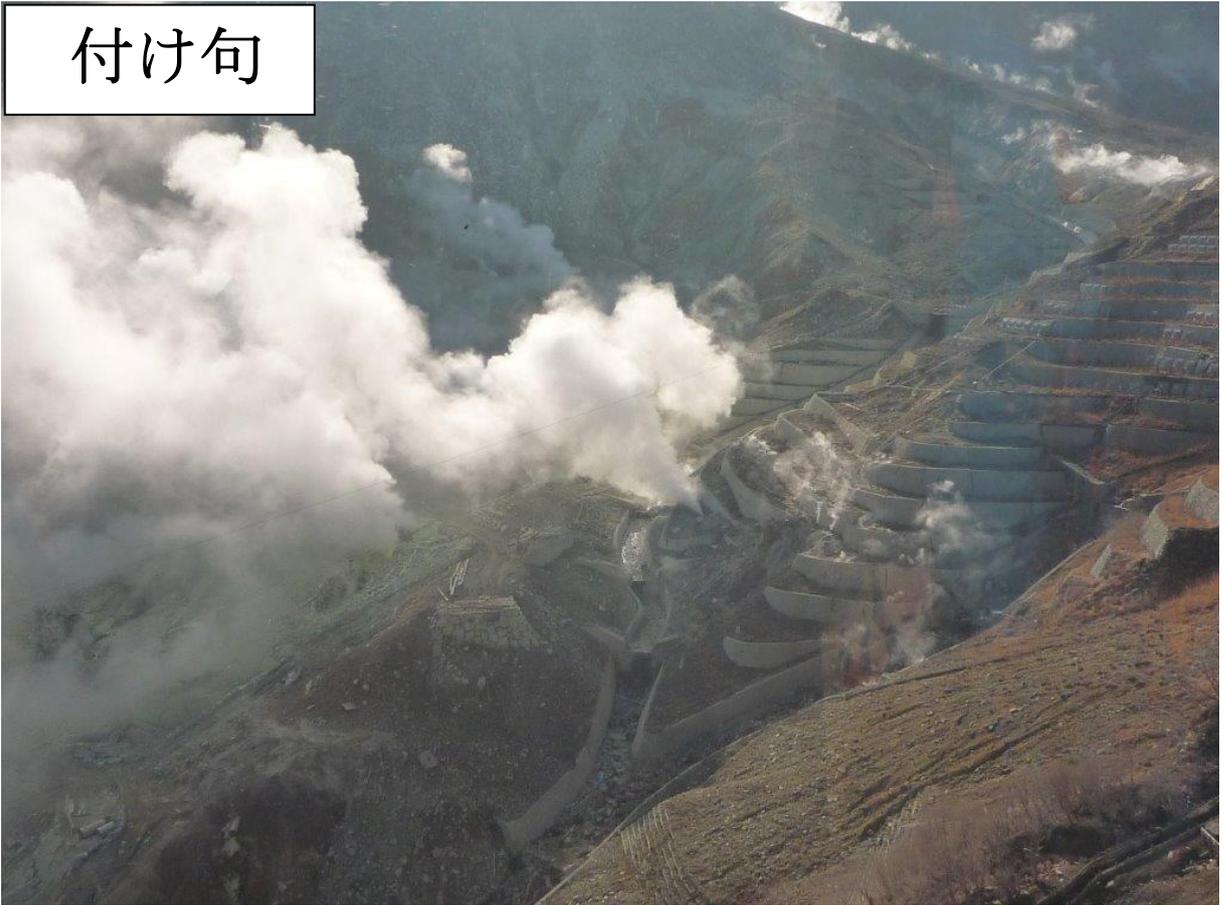
3) 嫁にゆく手塩にかけた三姉妹 安藤 晃二

風よけの藁帽子をかぶせ、大事に育てた冬牡丹を、嫁入りを待つ三人姉妹に見立てた発想が素晴らしい。「手塩にかけた」の措辞が利いている。

4) 晒されて塩すりこまれ熟れを待つ 大月 和彦

遡上した鮭を捕り、寒風に晒して新巻鮭に仕上げる。構図のよい綺麗な写真だが、句が完全に写真の解説に終わっているのが惜しい。

付け句



矢澤さんの出題は箱根のロープウェイから見た大涌谷の写真です。

寸評

1) 噴煙はマグマ溜まりの**血压計** 大月 和彦

最後のフレーズがなければ単なる説明句に終わるところ。

血压計を持ってきたところに読者の共感を得た。

2) 恐竜の火を吐く前の**一呼吸** 中村 晃也

間歇的に吹き上げる噴煙を恐竜の一呼吸に見立てた。

3) 息吐けば**温泉卵**百個分 中村 晃也

直ぐに食べ物に結びつける作者のいやしい本性が垣間見える。

4) 怖きもの地震原発火事噴火 大越 浩平

地震かみなり火事おやじを現代風に原発と噴火に置き換えた。

5) 屋外は禁煙なのに知らぬ顔 池田 隆

人間様には禁煙を説くが自然現象には目をつぶる矛盾を鋭く突いた。

6) つけ句出ず出るはオナラと湯の煙 池田 隆

苦し紛れの句に見えた。作者にオナラの句が多いのは年齢のせいで身体のしまりが緩んだ証拠？

7) あばたづら色目遠目で煙にまく 三 春

火山の表面は確かにアバタ面だし、煙も確かに確認できる。

あばた面のオトコに色目をつかわれて、本気になった途端に煙に巻かれたという女性の愚痴に聞こえるが？